# 羽束郷は太子乳母の里（香下）

羽束山という名前は、このあたりが羽束と呼ばれたところからきている。では、どうしてその名前が付いたか知っているかい。

むかし、羽束のあたりには、鷹や鷲がよく飛んでいたそうだ。それに、弓矢に適した竹が多く生えていた。

それに目をつけたのが羽束師一族だ。その一族は、竹と鳥の羽根を使って弓矢を作るようになったんだ。都に矢竹を納めていたと言われている。

この一族が住んでいたあたりを羽束と呼ぶようになったと考えてもおかしくはあるまい。だから山の名前を羽束山、川の名前を羽束川としたのだろう。

そういえば、弓の弦に当てる矢のおしりを矢筈（やはず）、弓の弦を張る両端を弓筈（ゆはず）と言うんだ。この筈（はず）が地名の波豆、川の名前の波豆川に結びついたのにも、この一族が関わっているのかもしれないな。

ところで、聖徳太子という名前を聞いたことがあるかい。二歳にもなっていないのに百まで数えたとか、一度に何人もの人の言うことを聞き分けることができたとか、とにかくとても賢い人なんだ。その人のお母さんが、羽束郷にいた一族に関係あると言われている。だから、聖徳太子の乳母が、この羽束郷から選ばれたんだ。そらあ、一族の喜びようは大変なことだった。

聖徳太子が大きくなって、乳母だった人がその役目を終えて帰ってきた。その人は、太子のことを自分のことのように話したそうだ。役目を離れても、太子のことが気になって仕方がないようだった。

そこで一族は、太子の今後の成長を願って、山の中に太子堂を建てたんだ。三歳ごろの太子の像を作って、その中にまつった。そこは、とてもおごそかな場所で、めったに人が近づけないところだった。乳母は朝に夕に礼拝を欠かさなかった。

そのころ、東国の蝦夷は朝廷に従わなかった。そこで時の天皇は、聖徳太子の知恵をもって従わせようと、東国に聖徳太子を赴かせた。その時に太子が射った鏑矢がまつられていることから、鏑射寺という名前が付いたと言われて

いる。

他にも、こんな話も伝わっている。太子の夢の中に虚空蔵菩薩があらわれて、

「人々のくらしをよく見なさい。人々の苦しみを聞きなさい。私はその苦しみを持つ人々を救おうではないか。あの高い山にまつられよ。」

と告げられたそうだ。

このことによって建てられたのが、藍本の虚空蔵寺だ。聖徳太子が建てられたと言われている。当時は七堂伽藍が建ちならび、お参りに来る人も多かったそうだ。太子にあやかって賢くなるように、十三才になると、必ずお参りしたそうだ。

昔から、羽束郷が聖徳太子乳母の里と呼ばれているのは、こういうわけがあったと言うことさ。